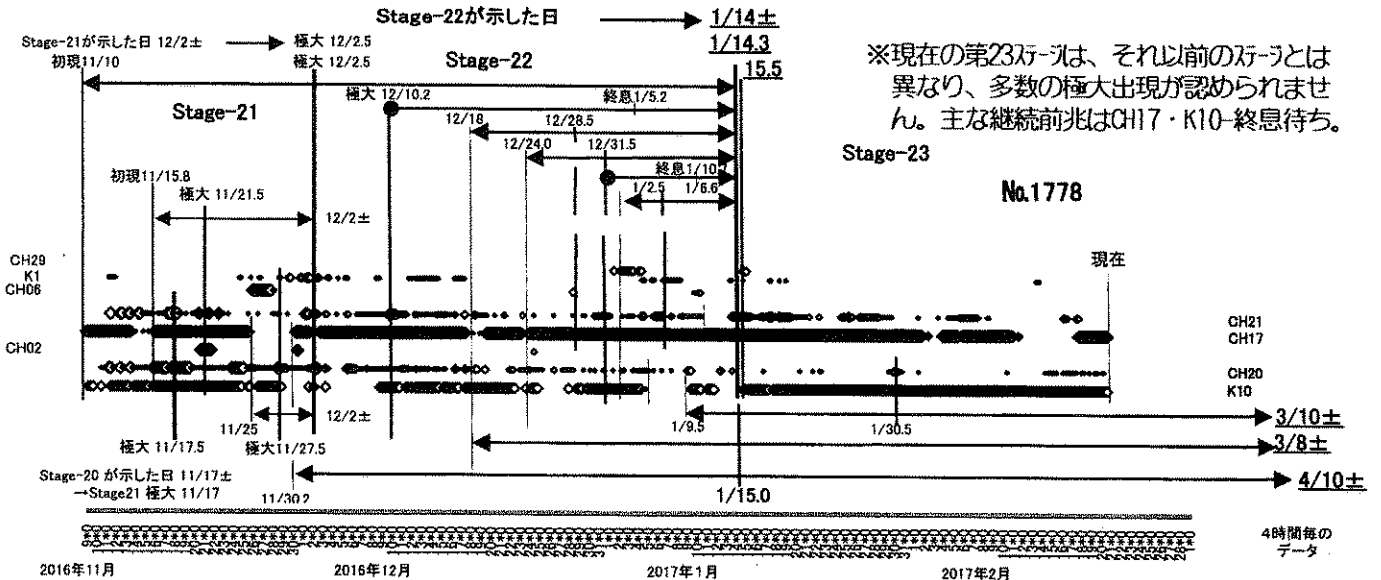


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 続報 前兆継続 3/10± 4/10± 可能性検討



※現在の第23ステージは、それ以前のステージとは異なり、多数の極大出現が認められません。主な継続前兆はCH17・K10-終息待ち。

長期継続特殊前兆No.1778第23ステージの現在、2/16±にK10 特異が終息した場合は、2/21±の可能性も考えられました。

しかし、K10特異は継続出現中。従って2/21±の可能性は否定されます。

静穏化していたCH17の糸状特異が2/18から再出現。この再出現が直前特異である場合は、2/26±の可能性も考えられました。しかし、2/26±の場合には、K10特異も2/19±に終息することが計算できます。(観測情報では報告済)

本日2/20午後時点で、K10に特異状態が継続出現していること、またCH17の糸状特異も継続出現し、2/19.0中心で出現した直前特異とは認識しにくいこと等から2/26±の可能性も否定されることになりました。(観測情報では報告済)

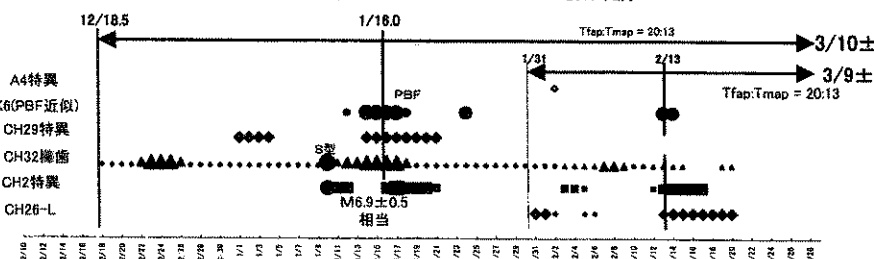
No.1778長期継続地震前兆第23ステージは、それ以前のステージと異なり、多数の極大が出現しておりません。認識できるのは1/15極大とCH20の1/30の可能性です。これら極大に対する初現は、第22ステージ前兆が顕著であるため、識別することが極めて困難です。CH17糸状特異の継続出現開始やCH20特異の間をあけた継続出現開始日等を仮に初現認識しますと、上図中に記したとおり、3/10±と4/10±が示唆されます。

1/16極大認識のK6-PBF・CH32歯歯地殻地震前兆=火山帯近傍地殻地震の可能性前兆は、現在No.1778長期前兆の別形態前兆で同一活動を示す前兆の可能性が示唆されますが、この前兆群の前兆関係(初現・極大)からも、3/10±の可能性が示唆されます。

従いまして、次に可能性が考えやすい時期は、03月10日±の可能性が考えられます。仮に3/10±を示す場合には、1/15極大認識のCH17糸状特異は2/25±に終息の可能性、1/30極大認識のCH20、K10は2/28±に終息する可能性が計算できます。

この時期±に前兆終息変化が観測されるか否か観測を続けます。3/1以降も引き続きCH17、K10等に前兆が継続出現した場合には、4/10±の可能性もありますので、実際の前兆変化を注意深く観測したいと考えます。実際の前兆終息が観測されたのち、発生日を計算して報告させていただきます。

※本年に入ってから、1/5 福島沖M5.3 1/13 千葉北西M4.9 2/19 千葉北東沿岸M5.4(この地震のみ気象庁速報値)の前兆のみ検出し発生推定。良好です。E-mail,FAXの情報で配信報告済。C)Copyright 2017 YSBO 八ヶ岳南麓天文台



- ◆推定領域: 下図点線領域内=大枠推定域
太線領域内=可能性高い
(活動度無関係 火山にある程度近い可能性)
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
(前兆評価誤認でも最低=M6.9 ± 0.5)
- ◆推定時期: CH17が2/25±終息した場合は
3月10日±の可能性
※CH17、K10が3/1以降継続した場合は、
実際の前兆終息を観測して続報で報告
- ◇推定地震種: 震源が浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: AM 9時±1 (or PM 6時±3)

